

昭和61年度 漁況海況予報事業浅海定線調査

(陸 奥 湾)

(要 約)

中谷 肇・高林 信雄・蛭名 政仁・浜田 勝雄
横浜 昌夫・鈴木 常雄・本間 直吉・長津 司

この調査は、陸奥湾内における海況の特徴や永年変化などを把握して、湾内の漁業および増養殖業の健全な発展に資するため、海況予報に関する基礎資料を得ることを目的として実施したものであり、本年度は継続15年目の調査年度であった。なお、本調査の詳細については、別途、「昭和61年度漁況海況予報事業浅海定線調査結果報告書(陸奥湾)」(昭和62年3月)として報告した。

調 査 方 法

- (1) 調査地点・回数：例年の6定点のほかにStn. A、Bを設け、任意選択して実施した。昭和61年中に計12回実施。
- (2) 調査水深：0、5、10、20、30、40 mおよび底層。Stn. A、Bは若干異なる。
- (3) 調査項目：気象、透明度、水温、塩分、溶存酸素、クロロフィルa(4定点)、卵稚仔魚、動物プランクトン、植物プランクトン。

結 果

昭和61年の海況を月毎にまとめると次のようになる。なお、水温は1972～1983年の累年平均値を平年値とし、塩分の表示は「実用塩分1978」によった。

昭和61年1月：水温は4.43～9.37℃で、前月(昭和60年12月)より1.11～5.63℃降温し、西湾側では概ね平年並み、東湾側では全般に平年より低めであった。

塩分は33.268～33.893で、東湾側の中層以深および西湾側では前月より上昇し、そのほかでは、ほぼ横ばい気味であった。平年に比べると、西湾側では高め、東湾側では低めであった。

2月：水温は2.75～4.68℃で、前月より0.63～5.10℃降温し、平年より0.15～2.95℃低い。

塩分は33.200～33.410で前月より0.061～0.611低下し、平年より0.240～0.505低い。

水温の水平分布は依然として西高東低であるが、西湾側の水温低下が東湾側より大きかったため(前月比、西湾側-3.51～-5.10℃、東湾側-0.63～-2.46℃)東西の水温差は前月より縮少した。塩分についても同様である。

3月：水温は3.14～4.76℃で、Stn.1以外は前月より昇温したが、平年に比べると全般に1.36～3.46℃低い。

塩分は33.084～33.790で、Stn.5では平年より0.031～0.391高め、その他のStn.の10m以深では平年より0.039～0.466低めであった。

4月：水温は4.65～8.70℃で前月より1.4～4.0℃昇温し、概ね平年より低めであった。水平分布は西湾側で高く、東湾側で低い。

塩分は31.482～33.883で西湾側では平年より高め、東湾側では概ね平年より低めであるが、Stn.6の20 m以深では平年より高めであった。

5月：水温は6.73～10.10℃で、20 m以深では平年より0.08～1.88℃低い。前月に比べると0.81～3.90℃昇温した。

塩分は32.465～33.778で概ね平年より低め、5 m層～30 m層では前月より0.199～0.833低下した。

6月：水温は9.31～15.40℃、塩分は32.730～34.046であった。

7月：水温は9.66～17.20℃で、一部の中層で平年より高めの所があるが、そのほかは全般に平年より低めであった。

塩分は32.805～34.130で全般に平年並みもしくは平年より高めであった。

8月：水温は12.37～25.50℃で、前月より2.06～8.70℃昇温した。平年に比べると、Stn.3、Stn.4、Stn.5の30 m以深では、0.96～3.50℃低く、そのほかでは概ね平年並みであった。

塩分は32.728～34.229で東湾の表層では平年より0.104～0.239低いが、そのほかでは0.009～0.589高い。

9月：水温は17.17～23.10℃で、20 m以深では平年よりも0.40～1.68℃高い。10 m以深では前月より0.34～5.35℃昇温した。

塩分は33.045～34.162で概ね平年並み。

10月：水温は15.59～19.84℃で、概ね平年より低め、前月に比べると0.47～5.07℃降温した。

塩分は32.907～33.826でStn.1、Stn.4、Stn.6の底層以外では、平年より低め。30 m以深では前月より0.047～0.733低下した。

11月：水温は9.42～11.47℃で、概ね平年並み。鉛直差は小さく、水平分布は西高東低が次第にはっきりして来た。

塩分は33.310～33.522で鉛直差、水平差とも小さく、概ね平年並みであった。

12月：水温は、西湾側～湾中央部では9.52～11.94℃で平年並み、東湾側では7.90～9.90℃で平年より0.07～2.23℃低い。湾口部の水温は8.85～12.86℃であった。

塩分は33.451～33.965で平年より0.129～0.416高い。

水温の最低値は、2月27日Stn.5・20 m層で観測された2.75℃で、最高値は、8月18日Stn.4・0 mの25.5℃であった。

底層溶存酸素量の最低値は、8月18日Stn.3の5.24 mg/lであった。

クロロフィルaは、Stn.2、Stn.4とも2月に最も高く1.2～2.3 mg/m³であったが、そのほかは概ね0.1～0.8 mg/m³であった。

透明度の最高値は4月21日Stn.4の19 mで、最低値は5月20日Stn.2・Stn.3、9月12日Stn.5・Stn.6、10月13日Stn.5の8 mであった。